

支 部 通 信

日本山岳会山梨支部 第3期第4号
平成30年6月20日

定時総会開催

平成30年度定時総会が、4月21日（土）午後5時30分から甲府駅ビル「サロン・ド・エクラ」で開催された。出席者は31名、委任状提出者33名。1時間にわたり審議が行われた。

深沢健三支部長はあいさつの中で、昨年度の事業（やまなし登山基礎講座・4支部交流会・『甲斐山岳』への原稿執筆、他）への協力に感謝を述べた。その上で、今年度は支部創立70年に当たる年であり、これを記念する事業への物心両面の協力を要請した。記念事業は、式典の開催（31年2月23日）、記念登山の実施（翌24日）、『山梨二白山』の刊行、『甲斐山岳』70周年特集号の発行等であり、会員の全面的な協力の下に事業を成功させたいとした。

来賓祝辞では、日本山岳・スポーツライミング協会監事の内藤順造氏が、平成31年に「山の日」記念全国大会が甲府市で開催されることに関連して、「山の日」を今後どのように定着させ、国民祝日法定められた趣旨をいかにして実現していくかとの問題提起をされた。また多発する遭難対策を「山の日」の活動の一環として取り組むなどして、自立した登山者の育成が急務であると語られた。



新役員あいさつ

議事では、29年度事業、29年度決算、役員改選、30年度事業計画、30年度予算が提案され、審議・可決された。30年度予算では、70周年記念事業の『山梨二白山』発行経費として会員から3千円の特別会費を徴収することが提案されたが、これでは不十分だとの意見が出され、「3千円以上」を徴収することが満場一致で可決された。

総会後は出席者全員による懇親会が行われた。互いに近況を語り、故人を偲び、古希を迎えた山梨支部の歩みを話題にし、時を忘れて親睦を深めた。（矢崎茂男）

平成30・31年度役員一覧

役職	氏名	担当	役職	氏名	担当
顧問	遠藤 靖彦	諮問への意見	理事	遠山 若枝	自然保護
	内藤 順造		理事	青木 茂	広報
支部長	深沢 健三	支部統括	理事	矢崎 茂男	会誌・会報
副支部長・理事長	北原 孝浩	支部長補佐	理事	大澤 純二	山行・総務・議事録
会計担当	小宮山 千彰	会計	理事	渡辺 峯雄	総務
事務局担当	古屋 寿隆	事務総括	監事	堀口 丈夫	業務監査
理事	荻原 賢司	山行		小宮山 稔	会計監査
理事	所 一路	山行			

支部創立70周年事業に向けて

山梨支部は今年、創立70周年を迎える。記念式典や記念登山、記念誌の発行などを検討中である。

これまでのところ、記念式典を来年2月23日に開催することが決定されたほか、『甲斐山岳』記念号の発行、『山梨二白山』の出版などの準備が進められている。式典には本部、中部ブロックの越後、信濃、静岡各支部、山梨県山岳連盟代表などを招く予定である。

支部は1948（昭和23）年12月11日に発足した。大沢伊三郎さん、今井友之助、小田和友蔵さんら、戦前から山梨の登山をリードしてきた人たちが中心だった。以来、一時期の停滞があったが、古屋学而・遠藤靖彦支部長時代に完全復活し、現在に至っている。

支部の歴史を振り返りつつ、新たな山に向かって挑む記念の年となるよう、会員各位のご協力をお願いする次第である。(深沢健三)

平成30年度 支部山行計画

平成30年度の支部山行を次のように計画した。6月～9月の詳細は既に案内済み。楽しく実り多い山行を重ねたい。大勢の会員のご参加を願っている。(荻原賢司)

年	月	日	山名・地域名	担当者	山行目的・その他
30年	4月	15日	茅ヶ岳	古屋寿隆	第37回深田祭記念登山
	5月	20日	日向山(北東稜)	長沢洋	人気の山の静かな尾根
	6月	9日	三ツ峠	磯野澄也	希少植物の観察と保護
	7月	21日	西沢溪谷	深沢健三	第1回田部祭記念山行
		22日	木曾駒ヶ岳(千畳敷から)	小宮山千彰	初夏の高山植物観賞
	8月	19日～ 20日	真教寺尾根～赤岳～キレット小屋(泊)～権現岳～天女山	小宮山千彰	夏の高山植物観賞と八ヶ岳縦走
	9月	9日	楡形山(伊奈ヶ湖～丸山尾根～唐松岳～楡形山～中尾根)	渡辺峯雄	静寂な丸山尾根から楡形山へ
	10月	21日	五里山	古屋寿隆	第59回木暮祭記念登山
	11月	11日	宮地山～セイメイバン～桜峠	萩野有基子	紅葉鮮やかな大月の山
	12月	1日	十枚山	磯野澄也	南部の名山に立つ
31年	1月	20日	黒平・ミミ石(甲府市黒平)	荻原賢司	知られざる秀峰に登る(健脚向き)
	2月	24日	大蔵経寺山～鹿穴～大日影～躑躅ヶ崎園～武田神社	澁澤和子	盆地の北山を縦走
	3月	16日～ 17日	七面山(角瀬～北参道～奥之院(泊)～敬慎院～七面山～羽衣)	磯野澄也	ダイヤモンド富士と日蓮宗と下部温泉の山旅

支部山行報告

【北八ヶ岳】 山行日：平成30年2月24日(土)～25日(日)

地図：2万5千図・「蓼科山」「蓼科」

■行程：ピラタスロープウエイ駅ー縞枯山ー茶臼山ー麦草ヒュッテ(泊)ーヒュッテ発ー白駒池ー茶臼山・冷池歩道ーピラタスロープウエイ駅

■参加者：小宮山千彰、大澤純二、大澤さな枝、西村咲子、黒沼英美

登山を始めて15年、本格的な雪山を始めて2シーズン目になる。北八ヶ岳のスノーシューハイクに友人が参加するとの話を聞き、同行をお願いした。

ピラタスロープウエイ乗り場に9時に集合。青空が広がるものの、風は強い。山頂駅に降り立つと更に強風。小宮山リーダーを先頭に5人で縞枯山を目指した。樹林帯に入り風が萎えてほっとしたのも束の間、今度は急登が始まった。やっとの思いで稜線に出たが、再び手厳しい強風と寒気の歓迎を受けた。茶臼山への登りは、比較的平坦。静かで真っ白な森の中のトレイルを黙々と歩いていく。まるでアウトドア用具のカタログの表紙の中にでもいるような素敵な気持ちになった。

正午過ぎに宿泊先の麦草ヒュッテに到着。昼食を食べてから白駒池散策の計画だったが、外は大荒れのため、予定を変更して小屋でロープワーク講習会となった。めいめいが背負ってきた焼酎やつまみをご馳走になりながらの愉快的講習会だった。朝早くから夕方までガッツリ歩く山旅もいいが、暖かい小屋の中でゆっくり仲間と語り合う、こんな時間も優雅で贅沢である。

翌朝は快晴無風。まずは白駒池へ向かった。広々とした雪原は心地よく、みんなで童心に返って大はしゃぎした。「私は理性が働いてそんな恰好はできないよ」と言っていたのに、写真を見るととぼけた顔で「シェー！」のポーズ。下界では味わえない至福の時間を過ごすことができた。

宿にデポした荷物を背負い、スノーシュー、ワカンを履いて茶臼山・冷池歩道を北上する。曇り空だが、うっすらと八ヶ岳の峰々が見えて心が弾む。こうして2日間の山行は瞬く間に終わった。計画して



くださった小宮山リーダー、優しくして頂いた大澤ご夫妻、そして誘いの声をかけてくれた友人に感謝している。(黒沼英美)

【飯盛山】 山行日：平成30年3月11日(日) 地図：2万5千図・「八ヶ岳東部」「谷戸」

■行程：平沢峠・獅子岩駐車場一分乗してシャトレゼ駐車場－飯盛山－平沢峠・獅子岩駐車場

■参加者：大澤純二、長沢洋、深沢健三、北原孝浩、古屋寿隆、渡辺峯雄、小宮山千彰、池田新二郎、大澤さな枝、荏原由美子、会員外：深沢寿恵、伊藤智恵子、上田謙治

平沢峠獅子岩駐車場に9時集合。あたりは霧で見通しが悪かった。どこからか「山頂からの展望は望めそうもないね」という後ろ向きの声。少しでも晴れることを願いながら、ワゴン車2台に分乗してシャトレゼ駐車場へ移動した。鹿防止柵のある登山道入り口から西川沿いに雪道を登りはじめた頃、青空が広がり始めた。登るにつれ、茅ヶ岳・曲岳とともに今日の目標の飯盛山が姿を見せ、八ヶ岳や南アルプス、天狗山、男山なども視界に現れた。また、唐松林に出来た見事な霧氷のトンネルにも息をのんだ。天候の回復と稜線の強風で、霧氷が見る間に落ちていき、幻想的で様々な模様が、太陽の光を浴びて作り出されていく。カメラを取り出し、撮影に夢中になった。

早めの昼食は、稜線を避け北斜面で日当たりの良い場所を選んだ。今年初めてのフキノトウ、レモンと胡瓜の漬物、野沢菜の漬け物などご馳走が次々と回って来た。仲間との和気あいあいの一時であった。

飯盛山を目の前にした南斜面は、雪が解け泥濘が続いて手こずった。山頂では記念写真を撮りすぐ下山を開始。林の切れ間から、野辺山宇宙電波観測所、清里の森、八ヶ岳牧場、そして八ヶ岳の雄大な姿が一望できた。野辺山高原平沢峠は、ドイツ人エドムント・ナウマン博士(1854～1927)が、この地勢を目にして、「フォッサマグナを発想した地」として知られる。地形図不完全の時代である。博士の卓見に脱帽した。

この山行で自然の雄大さ、仲間との絆を感じた。これからも多くの山に登り、その美しさを発信していきたい。(上田謙治)



【茅ヶ岳】 山行日：平成30年4月15日(日) 地図：2万5千図「茅ヶ岳」

■行程：深田記念公園前－女岩手前－山頂－尾根道－深田記念公園前

■参加者：古屋寿隆、荻原賢司、池田新二郎、入倉利也、矢崎茂男

「深田祭記念登山は一年おきに雨・・・」。このジメジメ通り、第37回深田祭当日の朝は、冷たい雨に見舞われた。好天に恵まれた昨年とは一転、山道には雨音と閑古鳥の鳴き声が響いていた。女岩手前で小休止。落石危険箇所となったかつての給水場は、さらに嚴重に規制ロープが張られ、懐かしいオアシスへの侵入を阻んでいた。急斜面に息を切らし、汗を滴らして稜線(女岩ノコル)へ。そこから10分で深田氏が脳溢血に倒れた地点に着いた。小さな記念碑が雨に濡れて寂しげだった。一同、合掌して深田氏の功績を偲んだ。

山頂に人影なし。めいめい露岩に腰掛けて昼食とする。展望はなく、雨に打たれて体は冷えるが、山や下界の四方山話に時を忘れた。下山は尾根道(防火帯道)を使う。路傍にミツバツツジが紫の花弁を広げていた。群落も現れて、芽吹き前の山肌に鮮やかな彩りを添えていた。いつしか雨が上がり、霧の向こうに韮崎の町並みが透けていた。

記念公園前広場到着、12時半。13時から始まった深田祭では、県山岳連盟前会長でもある古屋事務局長、深沢支部長が祝辞を述べた。式典の最後は、会員で秋山白鳳会会長の指揮による「いつかある日」(深田久弥訳詩)の合唱で締めくくられた。(矢崎茂男)

トピックス

☆第4回やまなし登山基礎講座

山梨学院生涯学習センターの協力を得て開催してきた「やまなし登山基礎講座」は今年、4回目を迎える。現役世代の若い人が受講できるよう、山梨学院と適切な方法を検討している。①実施は9月25日から10月30日、開催時間帯は18:45から21:00、②期間は従来の14回から8回に短縮(机上6回、実技2回)、③講座内容は初心者向けにポイントを絞ることとした。会員の協力をお願いしたい。(深沢健三)

☆30年度レインジャー活動計画

山梨県山岳レインジャーは昭和56年に制度発足したが、その内容、活動は時代とともに変遷があり、現在実施中の活動は山梨県が「希少野生動植物種の保護に関する条例」を制定（平成19年7月9日公布）した後の平成20年からスタートした。今年度の山岳レインジャー活動は、登録メンバー11名（内、新規登録者4名、このうち昨年度日本山岳会入会者3名）で実施する。山梨県山岳連盟（自然保護委員会）による今年度の山梨支部の配置は次の通りである。

実施予定	山 域	ル ー ト	形 態
6月2日～8日	奥秩父	定経路①	日帰り
6月16日～22日	楡形山	探索	日帰り
6月23日～29日	甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳	探索	1泊2日
7月7日～13日	北岳または白根三山	定経路①	1泊2日
7月28日～8月3日	鳳凰三山	探索	1泊2日

なお、山域「奥秩父」については、6月3日に8名のメンバーで実施済。山域「楡形山」については、6月17日にメンバー8名で実施予定。（北原孝浩）

☆井口会員、県山岳連盟から功労者表彰

井口功会員が、長年にわたる国内外での登山実践、連盟の海外登山実施への貢献等が評価され、山梨県山岳連盟から功労者として表彰された。井口会員は、国内の主たる山々はもとより、ヒマラヤ・カラコルム・南北アメリカなど海外の名だたる山々に数多く登頂し、入山日数は4000日を超えているという。また公認山岳ガイドとして、安全を第一に、多くの登山者に山の魅力を伝える活動を積んできた。支部として、今回の受賞を讃えるとともに、井口会員の業績・足跡から多くを学びたい。（古屋寿隆）

リレーエッセイ とっておきの山

鳳 凰 山 長坂公貴

好きな山はと問われると特出した山はないが、思い入れの深い山としては鳳凰山が頭に浮かぶ。自分の登山スタイルを確立してくれた山だからである。

高校生のときに登山を始めて、最初に登った高峰が鳳凰山である。夜叉神峠から入山し、薬師岳、観音岳、地蔵岳と稜線を北上した。特に危険な場所はなく、周囲の展望を満喫しながら真っ白な砂礫地をたどったことが懐かしい。日本アルプスの魅力に開眼した私は、その後、いくつものピークを踏んできたが、その出発点は鳳凰山であることを忘れはしない。

鳳凰山は難峰でも秘境でもない。JAC会員の誰にとっても身近な山だろうが、厳冬期登山、バリエーション登山にはない素朴な味わいをもたらしてくれる山だと思う。少なくとも、私にとっての鳳凰山は、そういう山であり、いとしい山である。

理事会報告

- 4月21日 平成30年度（2018）定時総会議題案について検討し承認された。
- 5月16日 6～9月支部山行計画詳細案作成と案内状発信の進め方について確認。JAC本部の規定改定に伴う登山計画書の本部への提出と、その審査機関について議論した。
- 6月13日 登山計画書の本部への提出については、前回の理事会の内容でとりまとめ、支部会員に周知することにした。第4回やまなし登山基礎講座の開催内容を決定した。（大澤純二）

編集後記

「支部通信」第3期第4号をお届けします。今回も味わい深い原稿を、新会員や一般参加者が率先して執筆してくださいました。お礼申し上げます。各種原稿、随時ご送付ください。

住所: 408-0114 山梨県北杜市須玉町藤田502 TEL: 090-7734-2788

Eメール: yazaki-s@taupe.plala.or.jp

広報担当 矢崎茂男